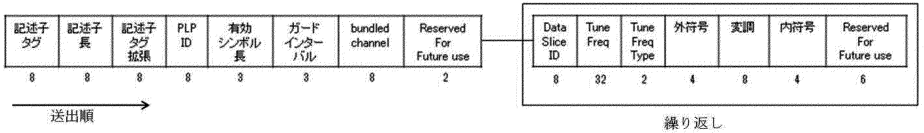
10　シンボルレートは、４ビットＢＣＤコード７桁とし、４桁以降が小数点以下を示す。
11　内符号は、誤り訂正内符号の方式を識別するために使用する領域で、内符号無しを示す‘1111’とする。
12　搬送波群の識別は、拡張情報を用いる多重フレームを伝送する搬送波を含む搬送波群を識別する情報を示す８ビットの領域であり、値0x00は、用いないこととする。

別記第４　高度有線分配システム記述子の構成

(1)　通常データ伝送の場合



注１　単位の指定のない数字は、その領域のビット数を示す。
２　「0x」に続く数字を16進数とする。
３　‘　’で囲まれた数字は、２進数とする。
４　記述子タグの値は、高度有線分配システム記述子を示す0xF4とする。
５　記述子長は、後に続くデータバイト数を書き込む領域とする。
６　記述子タグ拡張の値は、高度有線分配システム通常データ伝送を示す0x00とする。
７　PLP_IDはＰＬＰの種別を書き込む領域で、その値は８ビットの正の整数とする。
８　有効シンボル長は高度有線テレビジョン放送システムにおけるフレームの時間的長さを識別するために使用する領域で、次のような割当てとする。

値	意　　味
0x000	448μs
0x001	597.33μs
その他	将来使用のためのリザーブ

９　ガードインターバルは、直交周波数分割多重変調において干渉除去を可能とする付加時間の割合を識別するために使用する領域で、次のような割当てとする。

値	意　　味
0x000	１／128
0x001	１／64
その他	将来使用のためのリザーブ

10　bundled_channelは、ＰＬＰが連結されたチャンネルの数を書き込む領域で、その値は１から255までの整数とする。
11　Reserved_For_Future_useは、将来使用のためのリザーブとする。
12　Data_Slice_ID（繰り返し部）はデータスライスを識別するために使用する領域で、その値は０から255までの範囲から選択することとする。
13　Tune_Freq（繰り返し部）はTune_Freq_Typeに基づいたチューニングの対象となる周波数を書き込むための領域で、その値はkHz単位で指定することとする。
14　Tune_Freq_Type（繰り返し部）は、チューニングの対象となる周波数のタイプを識別するために使用する領域で、次のような割当てとする。

値	意　　味
‘00’	データスライスの中心周波数
‘01’	高度有線テレビジョン放送システムの中心周波数
‘10’	Ｌ１ブロックを識別できない狭帯域のデータスライスが使用する初期中心周波数
‘11’	将来使用のためのリザーブ

15　外符号（繰り返し部）は、誤り訂正外符号の方式を識別するために使用する領域で、次のような割当てとする。

値	意　　味
‘0000’	未定義
‘0001’	外符号なし
‘0010’	ＲＳ（204，108）
‘0011’	ＢＣＨ
‘0100’～‘1111’	将来使用のためのリザーブ

16　変調（繰り返し部）は、副搬送波の変調の型式の種類を識別するために使用する領域で、次のような割当てとする。

値	意　　味
0x00	未定義
0x01	16ＱＡＭ
0x02	32ＱＡＭ
0x03	64ＱＡＭ
0x04	128ＱＡＭ
0x05	256ＱＡＭ
0x07	1024ＱＡＭ
0x80	プリアンブルシンボルに組み込まれた副搬送波の変調の型式
その他	将来使用のためのリザーブ